

# 埼玉県立 三郷高等学校



## 学校概要

- 創立 昭和50年
- 生徒数 476名
- 学校所在地  
〒341-0041三郷市花和田620-1
- ホームページ  
<http://www.misatoh.spec.ed.jp>

昭和50年に埼玉県立の全日制男女共学の高等学校として設立。普通科の中に情報コースがあり、生徒数は476人。卒業生の約50%が大学・短大・専門学校に進学、50%が就職する。

目指す学校像として「生徒たちを、一人前の社会人に育て上げ、社会に送り出す」ことを使命に掲げ、以下の4項目を重点目標としている。

- (1)常識をもち、ルールを守る心と、基礎的体力を身に付けた社会人を育てる
- (2)日本語を正しく適切に使える力と、基礎学力を身に付けた社会人を育てる
- (3)資格を身に付け、進路指導を充実させ、進路希望の実現100%を図る
- (4)充実した学校生活と開かれた学校作りで、中途退学防止や地域連携に努める。



「人と人との人間関係作り、コミュニケーション能力や、自己表現力の育成にも活かしてもらいたいし、日本語の学習を通じて、日本の歴史、文化や伝統にも興味関心を持ってもらえればと思っています。」

大崎 忠雄 校長先生

## ～ 生徒が一人前の社会人となるために ～

千葉県との県境を流れる江戸川に接する人口約13万人の埼玉県三郷市。同市内にある全日制男女共学の県立「三郷高校」（大崎忠雄校長）は、目指す学校像に「生徒たちを、一人前の社会人に育て上げ、社会に送り出す」ことを使命に掲げ、学校挙げての基礎学力の定着と資格取得や国語力アップなどに取り組んでいます。今年6月の日本語検定には生徒全員が団体受検しました。大崎校長に団体受検のいきさつなどをうかがいました。

（インタビュアーは時事通信社記者・牧俊朗）

### 《最近の生徒たちの日本語力をどのように感じていますか》

携帯電話を利用した人とのコミュニケーションを取ることや、インターネットを活用した情報の収集伝達には大変熟達し、とりわけ携帯電話は、仲間同士との濃密なコミュニケーション手段として大変素晴らしい結果を出していると思います。

しかし、残念ながら、漢字や仮名、敬語の利用など日本語の「読む、書く、話す、聴く」という基本的な言語活動をバランス良く適正に使用することは不得手であるように思います。

また、メール友達ではないクラスメートや家族、教師ら「普通」の人間関係にある人とのコミュニケーションを適正に取ることは大変苦手であると思います。

### 《教育活動の中で、かねてより生徒の日本語力向上ということに力を注いでいるとかがっています》

高校教育は子どもを一人前の大人として組織的に育てていく最後の砦だと考えています。そこで、本校では、昨年度から学校目標に「生徒が一人前の社会人となる」ことを掲げました。一人前の社会人というその要件については、哲学的な難しい事を考えるということよりも、より具体的な要件を掲げて、生徒に提示し学習指導を始めました。

# 埼玉県立 三郷高等学校

具体的には、資格取得の拡充、マナー（常識）を身に付けること、基礎体力の育成などです。日本語能力向上の具体的な方策としては、国語科と進路指導部の教師が中心となり、全校規模で漢字能力検定、語彙力検定、日本語運用能力検定の受験などを始めたところです。

また、社会科など他の教科でも生徒のノート点検などを行って、教師の言ったことが、生徒にきちっと伝わっているかななどをチェックしたり、夏休みなどには進学希望者に対して1週間程度の小論文・作文の補習指導を行っています。

その成果についてはまだ、始めたばかりですので、残念ながら今後の努力に期待したいと考えております。しかし、教員や、生徒の中に、日本語学習を意識する心は確実に芽生え始めたと思います。

## 《今年6月に生徒全員が「日本語検定」を受検したとうかがっています》

昨年実施した、幾つかの検定では、日本語力の総合的な力を養うには少し不十分ではないかと言う意見が教員から出てきたからです。

例えば、「書く」にしても単に漢字や熟語が書ければよいというものではなく、作文や小論文が文章としてきちっと作成できたり、敬語にしても、その場の状況や相手に応じて言葉を使い分けられるようになることも大切であるとのことでした。

そこで、いろいろと検討した結果、「日本語検定」ならば、「敬語」、「文法」、「語彙」、「漢字」、「表記」など幅広い領域から出題されているので、日本語の総合的な運用能力を高めることができるのではないかと考えました。

生徒の反応は、なかなか難しかったということでしたが、事前に国語の授業の中や「総合的な学習」の時間を利用して学習を行ったこともあり、自分なりに満足する結果ではなかったかと思えます。これからも継続して受検しようと考えています。

## 《日本語検定を今後の生徒への指導の中でどのように生かしていくのでしょうか》

本校の生徒は、大学や短大、専門学校への進学と、就職がほぼ半数づつで、その生徒の進路希望の実現に役に立てたいと思っています。

進学、就職において現在は「面接」、「小論文・作文」のウエイトが大きくなっていますので、ぜひ、生徒には、日本語力を少しでも身に付けて、自分の進路実現を図って欲しいと思います。

また、人と人との人間関係作り、コミュニケーション能力や、自己表現力の育成にも活かしてもらいたいし、日本語の学習を通じて、日本の歴史、文化や伝統にも興味関心を持ってもらえればと思っています。

## 《今後の日本語検定に何を期待しますか》

日本語検定がさらに広く利用され、できれば「進路希望の実現」に具体的に役立つものとして一層オーソライズされ、大学進学や受験の資格要件となっていきたいと思います。